

1 研究主題

「自ら学び、共にひびき合える子どもの育成」

～文章の内容を的確にとらえて読むことができる子をめざして～

2 主題設定の理由

現在、情報化や少子化、核家族化といった言葉で表現される社会環境の中に児童は置かれ、受け身的な姿勢や、音声言語や文字表記による表現力の不足、社会性に欠けた言動などがしばしば指摘されるところである。

本校の児童も、「与えられた課題は熱心に取り組むが、自ら課題を見出すことがなかなかできない」、「自分の思いや考えを相手に上手に伝えられない」、「互いに認め合い協力しながら共に学ぶ（育つ）ことが十分にできていない」といった実態が見られる。

そこで、児童自ら課題を見つけ、試行錯誤しながらその課題を解決しようと努める中で、自分の周りの人や自然などに意欲的に関わり、そのよさを理解し、共生していこうとする力を育てたいと考え、本主題を設定することにした。

また、この主題に取り組むことにより、「生きる力」を育てることができると考える。

3 研究の経過

本校では「自ら学び、共にひびき合える子どもの育成」を研究主題のもと、平成25年度から、国語科（読み物教材）を窓口として新しく研究を始めた。「文章の内容を正確に読む力・互いに自分の考えを伝え合うことを通して自分の表現力や思考力・判断力を豊かにしていく力を身につけることを目指していく。また、教材を分析し、子どもたちが意欲的に取り組む国語の学習を実践していく教師の授業力を高めていく。」ことを目標に取り組んできたが、昨年度、次のような成果と課題が挙げられた。

『成果』

- ・心情を読み取る力・要約する力の高まりが見られた。
- ・自分の考え（読み取ったこと・筆者に対する自分の考え）を伝えられる児童が増えてきた。
- ・大事な文章に着目できるようになってきた。
- ・少人数の中では、自分の考えを伝えることができるようになった。
- ・教材の提示を工夫することで、学習意欲を高めることができた。

『課題』

- ・言葉の意味をとらえることができていない。
- ・伝え合いではなく、発表に終わってしまうことがあり、全体での話し合いを深める指導法の工夫。(発問・板書・投げかけ・立ちどまり)
- ・副題が3つあり、焦点をあいまいになってしまった。
- ・ひびき合う(学び合う)児童の姿の共通理解を図る。
- ・読む力の6年間の系統性が必要である。

昨年度は国語科の指導案を書くことから始めたが、読むこと・自分の考えを伝え合うことについて、意欲は高まってきているが、思考力・判断力をつけて想像豊かに読むことについては指導を要する。文章の内容をとらえ、自分の考えをもつことができると、人とかかわりたくなり、自ずと交流へと発展していくものと考ええる。

そこで、2年目となる今年度は、副題を「文章の内容を的確にとらえて読むことができる子をめざして」と改め、一人ひとりが文章の内容を的確にとらえて読む姿を目指して、研究を進める。

計画として、3年間、研究を続け、3年目が終了するときに、研究内容や副主題について検討してよりよい研究内容にしていく。

4 研究主題及び副主題の内容について

◎ 研究主題：「自ら学び、共にひびき合える子どもの育成」について

(1) 「自ら学ぶ」とは・・・

「〇〇してみたい。」という思いから、自発的な学習が始まる。学ぶとは、その思いが、様々ななかかわりあいを通して、自分を見つめ、生きる喜びを実感しながら、生き生きと充実した思いや考えを表現することである。自ら学ぶとは、自分の既習の力を使い、文章の内容を的確に押さえたり優れた表現や文章の構成(書かれ方)をとらえたり、作者や筆者の思いに触れたりして、自ら課題を見つけることができる子どもの姿として捉える。

また、自分の思いや考えを、言葉を媒体として豊かに表現できる子どもの姿を目指したい。双方向の交流の中で、自分の考えや思いをさらに豊かに実らせていくことが、自ら学ぶことへと結びついていくと考える。

(2) 「共にひびき合える」とは・・・

文章の内容や友だちの考えの受けとめ方や課題解決の方法は様々である。

共にひびき合っていくためには、まず自分の考えをしっかりと持つことから始まる。そして、思考力・判断力・表現力を高めるために考えを伝え合い、ひびき合うのである。

そこで、文章と出会い、自分の考えを進んで伝えるといった自己表現する力をつけることが大切である。そこで、次の力を身につけていきたい。

- ・ 叙述に即して自分の読み（考え、感想、疑問、共感など）を持ち、自分の言葉で分かりやすく表現する。
- ・ 共通点や相違点・疑問点をとらえて伝え合い、再構築して伝える。

そのためには、必要感のある課題設定・考える場の設定が大切となってくる。そして、どの文章・言葉に着目させたら、子どもたちのかかわりが豊かになるのか、どんな個の読みに着目させたら子どもたちの生き生きとした伝え合いとなるのか、教師の教材分析・授業の構想力・手立てが大切となってくる。

昨年度の課題や児童の実態から、文章の内容をとらえることが難しいことが浮かび上がってきた。また、自分の言葉で表現したり、互いに伝え合ったりする力も弱い面もある。そこで、副主題について、次のように考える。

研究の副主題

「文章の内容を的確にとらえて読むことができる子」

(1) 「文章の内容を的確にとらえて読む」について

「文章の内容を的確にとらえて読む」とは、叙述を基に想像豊かに読むこと、また、段落相互の関係や事実と意見の関係をとりえて読むこととする。そのために、次のような力を身につけさせていきたい。

- ・ 句読点に気をつけて、音読できる。
- ・ 主語や述語をとらえて読むことができる。
- ・ 接続語の意味をとらえて読むことができる。
- ・ 順序（時間・事柄）をとらえて読むことができる。
- ・ 事実と意見・感想の違いをとらえて読むことができる。
- ・ 描写（心情・行動・情景）やその変化・相互関係を叙述に即して読むことができる。
- ・ 感想をもつことができる。

このような内容を共通理解して進め、6 学年の読む力の系統表を作成していくこととし、的確に読む力を身につけさせていくことを目指す。読む力を身につけることにより、言葉を学ぶことができ、友だちの考えに触れ、想像豊かに考える力も身につくと考える。

5 研究の仮説

文章の内容を的確にとらえて読むことを通して、思考力・判断力・表現力を身につけることができる。そして、読むことを楽しむことにつながると考える。そのために、

次のことを大事にしながら、授業づくりを実践していくことにする。

- ・児童の視点・教師の視点で教材研究をし、考える場や育てたい力を明確にする。
- ・表現・思考・判断が伴うような発問・板書を工夫する。

このような仮説を立てることによって、副主題「文章の内容を的確にとらえて読むことができる子」に迫ることができるであろう。

6 研究内容

(1) 問題解決型の学習の推進をし、学習課題の設定の工夫をする。

- ・子どもたちが悩み考え、伝えたいような課題設定が必要である。読むことや教材（作品）に対する実態をしっかり把握し、児童の関心が高いところや考えさせたいところなどから、課題を設定し、ねらいに迫るようにしていく。
- ・言語活動の設定ー課題設定ー見通すー**考える**ー伝え合うー振り返る（見つめる）の学習過程をもとに、学習の流れを考える。
- ・子どもたちの考える場を焦点化する。

(2) 単元を貫く言語活動の開発

- ・単元を貫く言語活動を設定することは、子どもに学習のゴールを提示することである。どんな学習をするのか、どんな力が身につくのか、意識させていく。
- ・言語活動を通して、思考力・表現力・判断力を身につけていく。自ら学び、共にひびき合えるような相手意識・目的意識をもった言語活動を取り入れた単元構成を工夫する。
- ・単元ごとの言語活動表に修正をいれながらよりよいものを作成していく。

(3) 教材分析に取り組む（今年度の重点）

- ・子どもの興味関心や疑問を想像しながら、教材分析に取り組む。子どもたちが考え悩み、共にひびき合いができるように着目したい言葉や文章、文章構成や書き方の工夫を分析する。（子ども・教師の視点で分析していく）
- ・考える場を焦点化していく。
- ・教材（作品）の特徴・価値をとらえ、育てたい力を明確にしていく。
- ・分析表はおおまかな枠を提示するが、教材の特色にあわせて工夫していく。

(4) 発問・板書・環境を工夫する。（今年度の重点）

- ・子どもたちが考え悩み、互いにかかわりあいをもち、思考・判断・表現が伴うような発問（主発問・切りかえしの発問・ゆさぶりの発問など）を工夫する。
- ・互いの思考の整理や確認・比較ができるような板書・学習環境を工夫する。

7 研究の方法

(1) 低・中・高学年ごとにブロックテーマを決めて、研究を進める。

(2) 研究授業の実施

- ・全員の提案授業を計画する。
- ・授業提案をし、研究協議を行う。
- ・研究の重点を決めて進める。

今年度は、1年目の単元を貫く言語活動の開発・学習課題の設定に加えて、教材分析・発問・板書に重点を置く。

3年目は、1・2年目の内容を振り返り、その課題について研究を深める。

(3) 研究協議

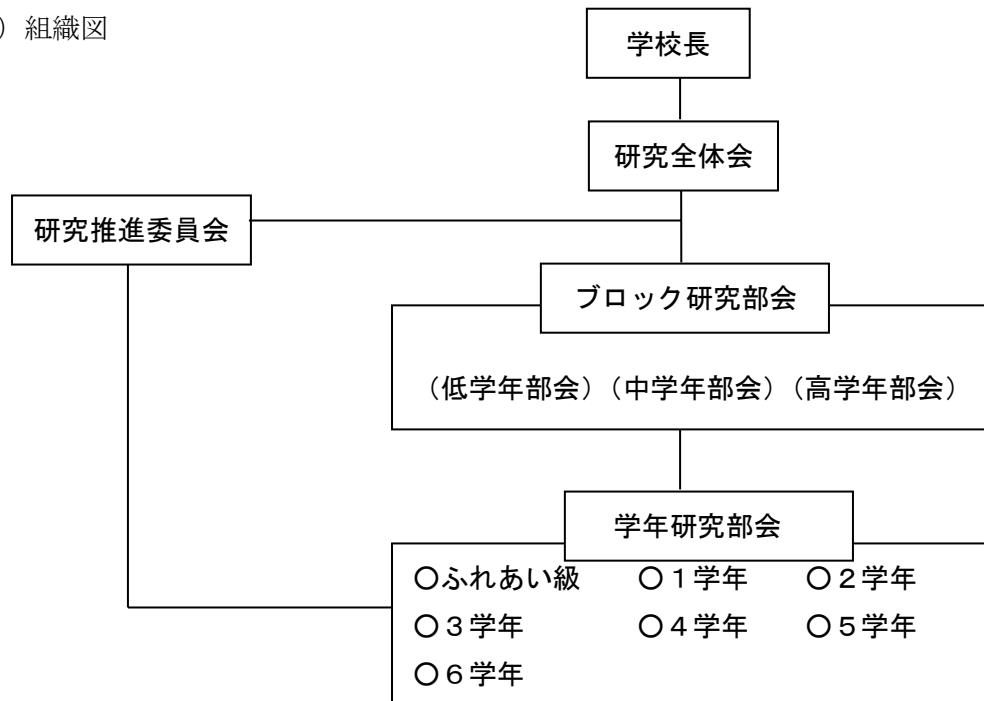
- ・自評には、本時目標や手立て（指導）について成果と課題をまとめ、A4半分まとめ、印刷配布する。（授業者）
- ・提案授業ごとに行い、記録する。
- ・視点（単元目標や本時目標や授業者のとった手立て・児童の姿）をもとに、成果と課題について話し合う。

(4) 研究だよりを発行する。

- ・各授業の成果と課題を発行する。（各推進委員）
- ・推進委員会の内容、研究の資料などを発行し、研究内容について共通理解を図る。

8 研究の組織

(1) 組織図



○研究推進委員会

- ・研究推進のための企画・立案を行う。研究協議のグループの作成を行う。
- ・推進委員会たよりを発行する。
- ・研究図書などの購入と紹介をする。

○研究全体会

- ・授業者が授業提案をし、視点に沿って研究協議をし、成果と課題を次に授業に生かしていく。(指導案は授業者が用意してください。)
- ・付箋紙協議をし、研究協議グループ（3つ）は毎回メンバーを変える。（協議の準備やメンバー作成は推進委員、ただし、3つのグループの中にそれぞれ推進委員は入る）
- ・全体会の司会・記録・会場作りは学年輪番とする。（6年から）

○ブロック研究会・学年研究部会

- ・授業者が授業提案をし、視点に沿って研究協議し、成果と課題を次に授業に生かしていく。
- ・ブロックテーマを決め、年間を通しての研究計画を立てる。
- ・成果と課題を次に生かしていく。

(2) 組織構成

低学年部会	教頭・眞壁・1年担任・2年担任・高杉・五十嵐
中学年部会	齊藤・3年担任・4年担任
高学年部会	校長・清水・中川（佐藤）・5年担任・6年担任
研究推進委員会	校長・教頭・齊藤・近藤 各学年から1名

10 研究の全体構造図

